

「栃木支部の蕪木節男さん、母校に絵画寄贈」の記事、
読賣新聞/産経新聞/下野新聞に掲載される

読賣新聞

感謝の絵画 母校に寄贈

さくらの中学 蕪木さん 高原連山描く



油彩を寄贈した蕪木さん(左から2人目)や
氏家中学校の藤田校長(同3人目)ら

とを大切に三〇回ほど通って、
山に降り注ぐ雪と太陽の光加
減にこだわりながら完成させ
たいう。

同校の藤田尚徳校長は「生
徒たちは高原山を見て鼓舞さ
れるだろう。大変ありがたい」
と話した。

(読賣新聞の記事を引用しました)

寄稿に際して

蕪木 節男

母校に感謝の気持ちを伝え
ようと、さくら市立氏家中
Bで元銀行員の蕪木節男さん
(八〇)が五日、自身が描いた
油彩画を同校に寄贈した。

皆々様のご支援のもと何と
か八〇歳を迎えることができ
ました。ついではその人生の基
本として正しい道に導いてい
た、さくら市氏家中学校
(母校)への「恩義」に応えるべく
粗画ではありますが油彩画
「厳冬の高原連山」三〇号を贈
呈致しました。

高原山はさくら市民の誰も
が朝夕に仰ぎ見る名山で、麓の
街々を明るく照らしてくれる
ありがたい山であります。

その感謝の意を汲み描き上
げたものです。

島根支部の田中俊晞さん、「鍾馗」の像制作、山陰中央新報に掲載！

「コロナ終息願い鍾馗の像制作

江津の彫刻家 田中さん

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の早期終息を
願い、江津市喜久志町の彫刻家、田中俊晞さん(七七)が疫病神
を追い払うとされる神「鍾馗(しょうき)」の石こう像を制作した。地
に足着けてどっしりと構える金色の像。「みんなで踏ん張ろう」との
願いを込めた。

国内で感染が広がり始めた
二月中旬、自らにできることは
ないかを考え、石こう像作りに
取り掛かった。石見神楽の面や
古い文献を参考にデザインし
た、高さ四二cm、幅二七cm、奥
行き一六cmの像で、色は、明る
い光が差し込み安寧が戻った世
界をイメージし、金のアクリル
絵の具で塗った。

「新型コロナウイルス」という逆風にも
動じず、仁王立ちする像は、貫
禄十分の太鼓腹、威厳のある表情も
見る人を安心感で包む。田中さん
は「コロナに負けてはならないとの思
いを込めた」と話した。

「みんなで踏ん張ろう」

(山陰中央新報の記事を引用しました)



疫病神にらみ仁王立ち

編集後記

コロナ禍で中止の新日美展に
代わり、新日美ネット会員展「私の
この一点」が開催されています。
生き生きとした、伸び伸びとした
104点の作品に感激しました。

会報の編集に10年間携わられ
ました小高峯夫さんが、171号を
最後に勇退されました。永い間お
疲れ様でした。

担当 石原 修